

# 今冬の需給実績について

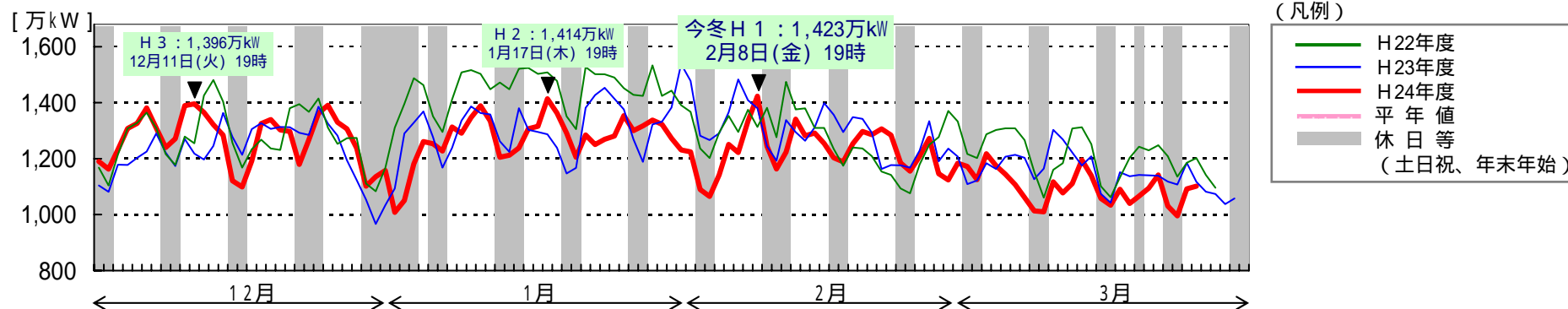
- ご説明資料 -

平成25年3月27日  
九州電力株式会社

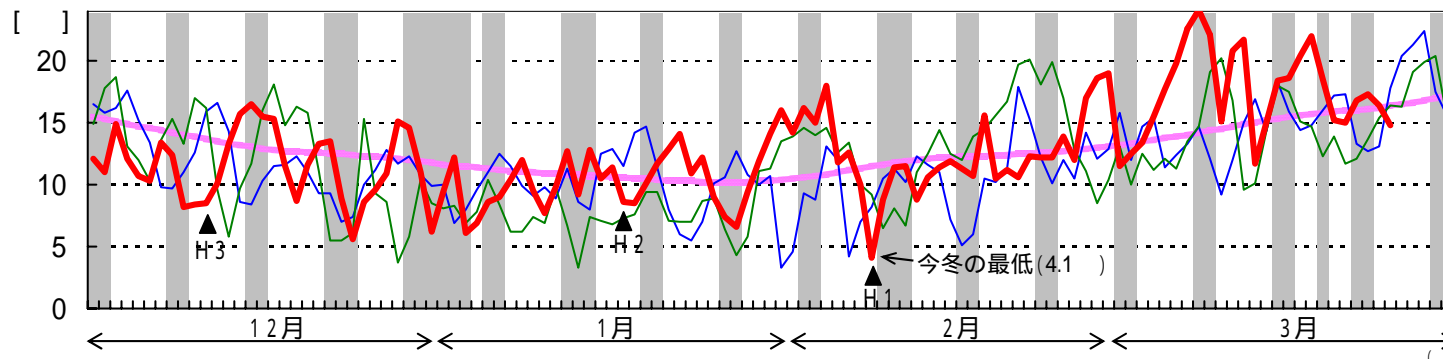
# 1 今冬の気象

- 12月(特に上旬)は、冬型の気圧配置による強い寒気の影響により、最高気温が平年を大きく下回ったが、その後1月以降は、寒気の停滞がなく低気温が継続しない気象状況となり、概ね平年並みの気温で推移。
- このような中、一時的な寒波の影響で、今冬の最高気温が最も低くなった2月8日(金)に時間最大電力1,423万kWを記録。

【時間最大電力の推移】



【最高気温の推移(九州7県平均)】



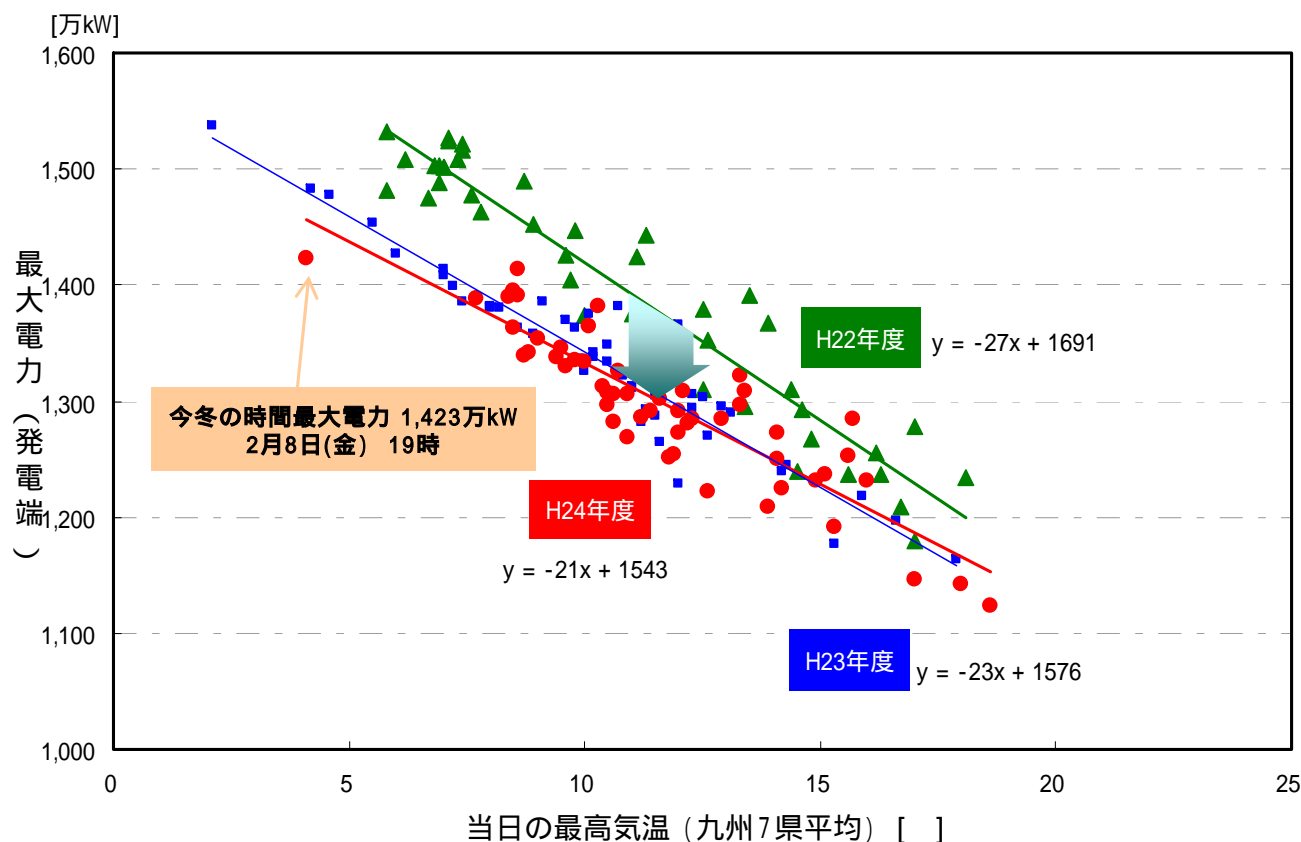
	12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬(26日まで)
最高気温(旬平均)	11.4	12.7	10.7	9.2	10.5	11.3	12.2	11.4	13.6	17.8	18.2	15.9
一昨年差	4.0	0.7	+0.1	+1.1	+3.5	+3.9	0.7	+0.7	4.1	+6.5	+2.8	+2.6
前年差	3.2	+0.6	+0.3	0.8	0.2	+1.6	+4.1	+1.8	+1.0	+4.4	+3.9	+1.0
平年差	3.3	0.4	1.6	2.1	0.1	+1.1	+1.1	0.9	+0.9	+4.1	+3.0	0.2

(参考) 降雨量実績(7都市平均) 12月~2月 累計285mm [平年比139%]

## 2 今冬の電力需要実績

- 今冬の最大電力需要は、気温の影響を除くと、平日の平均で、一昨年から 5.5% ( 76万kW) 程度低く推移しており、昨冬と同程度の電力需要の減少となった。
- これは、今冬の定着節電分として想定した節電効果 (一昨年比 4.5%) を上回る水準であり、主に、お客さまが広く節電にお取り組みいただいた結果と考えており、厚くお礼申し上げます。

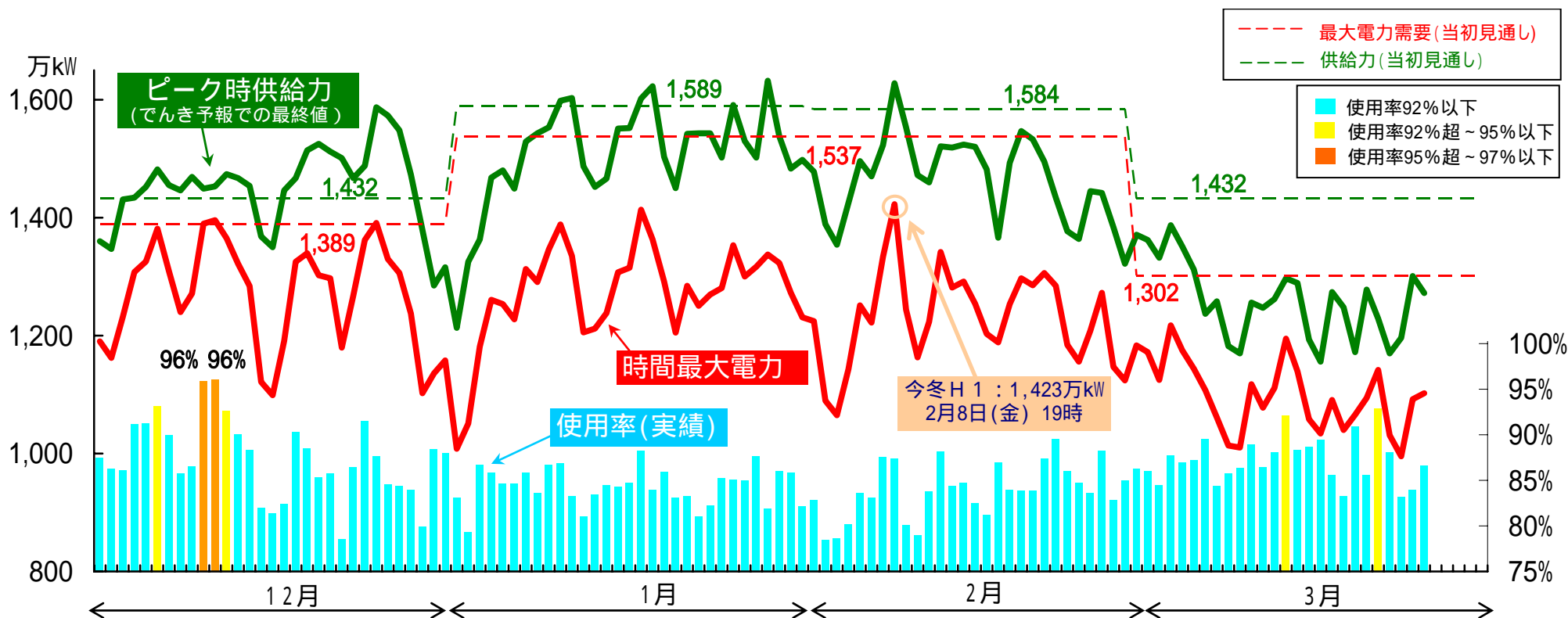
【 最大電力需要と最高気温の相関 (12~2月の平日) 】



【 お客さま別の節電効果等 (一昨年比) 】

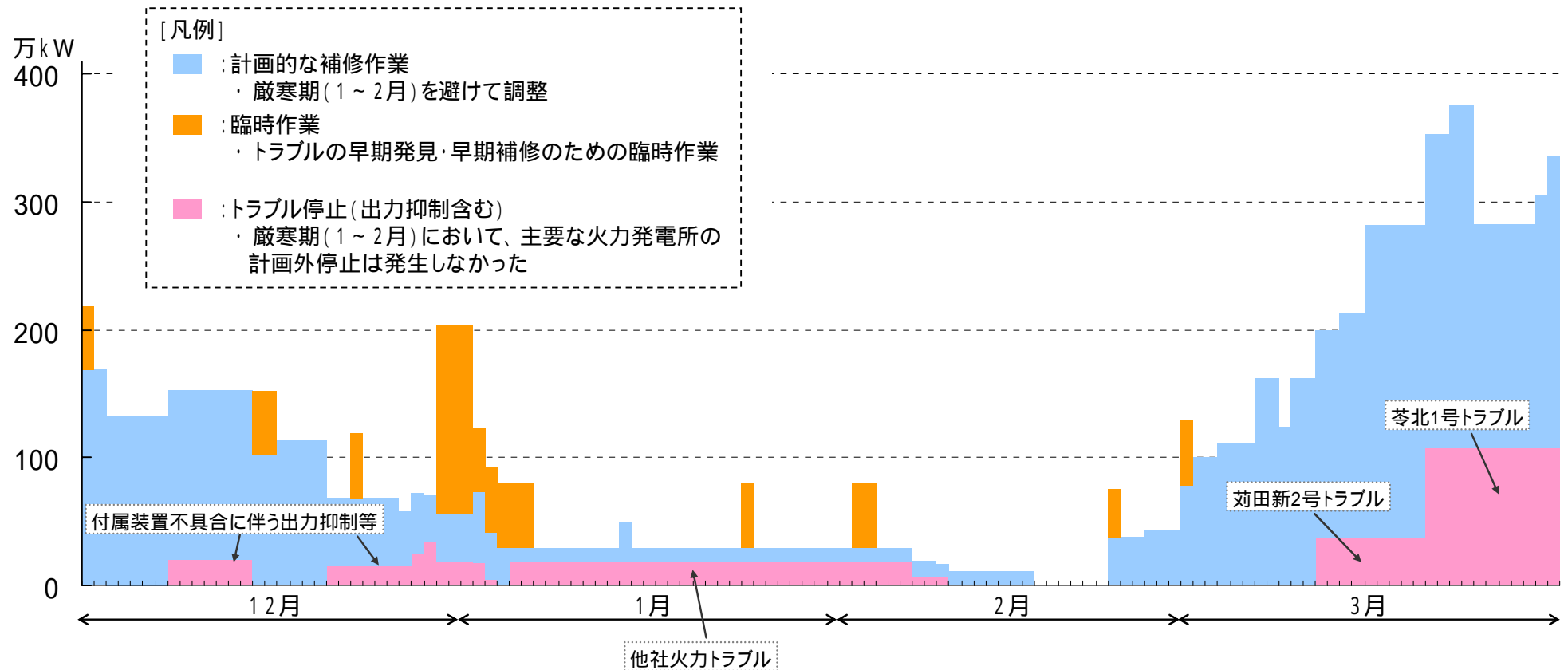
	期間平均(平日)
家庭用 (一般のお客さま)	4% ( 25万kW)程度
業務用 (オフィスビルなど)	6% ( 30万kW)程度
産業用 (工場など)	7% ( 25万kW)程度

- 12月上中旬については、火力発電所の補修による供給力の減少と、強い寒気に伴う電力需要の急増が重なり、厳しい需給状況となった。これに対しては、市場からの電力調達に加え、他電力会社からの追加の応援融通受電などにより、安定供給を確保。
- その他の時期は、お客さまの節電へのお取り組みに加え、寒気の停滞がなく低気温が継続しなかったことなどから、電力需要が当初見通しを下回った。  
これに対して、供給面では、火力発電所におけるトラブル原因の早期発見・早期補修に努めたことなどによって、厳寒期(1~2月)において大きな電源トラブルが発生しなかったことに加え、降雨量の増に伴う水力供給力の増加などの好条件も重なり、期間を通じて安定供給を確保。



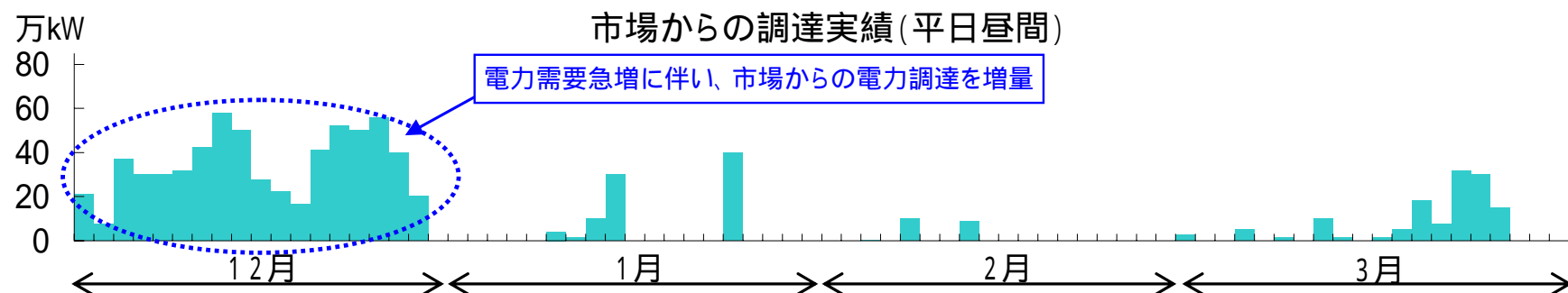
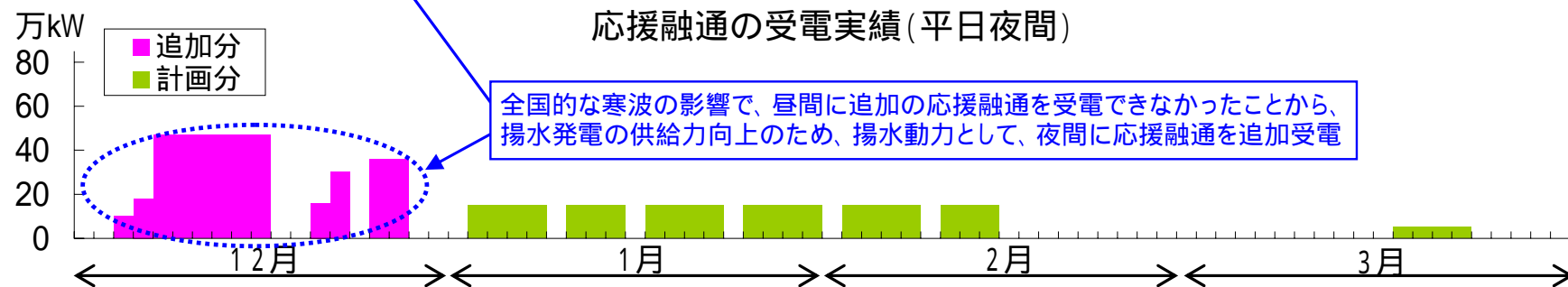
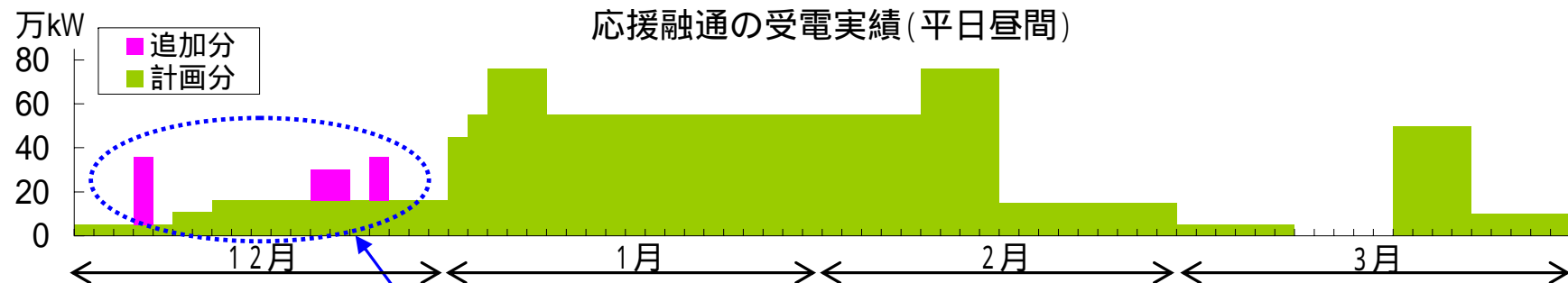
## 【今冬における火力発電設備の停止状況】

- 厳寒期(1～2月)に備え、火力発電所の補修を12月までに実施。
- 平日の安定運転確保のため、休日等(土日祝、年末年始)に点検・追加補修を実施するなど、電源トラブル原因の早期発見・早期補修を実施。
- この結果、厳寒期(1～2月)において、主要な火力発電所の計画外停止は発生しなかった。



#### 【他電力・市場からの受電状況】

- 今冬においては、12月上旬の需要急増に対応するため、他電力から追加の応援融通受電や市場からの電力調達を実施。



## 【 今冬の時間最大電力(2月8日)と当初見通しとの差 】

(発電端:万kW、%)

	2月見通し (10/12プレス) [A]	今冬H1 (2/8 19時) [B]	差 [B - A]	主な差の要因
電力需要 (当日最高気温)	1,537 (2.1 )	1,423 (4.1 )	114 (+2.0 )	当日最高気温が見通しに比べ高く、10日前から平年を大きく上回る高気温が継続したこと、ならびに、お客さまが想定を上回る節電にお取り組み頂いたことなどによる減
供給力	1,584	1,623	39	
原子力	0	0	0	
火力	1,253	1,250	3	内燃力出力(離島需要)の減
水力	83	117	34	降雨量の増に伴う水力供給力の増 〔計画段階では、常に安定的に見込める供給力として、 〕 〔 濁水時の供給力を計上 〕
揚水	147	165	18	需要減少や水力供給力増に伴う揚水供給力の増
地熱・風力等	16	20	4	風力供給力の増 〔 常に安定的な供給力として見込めないため、 〕 〔 計画時点では未計上 〕
電力会社間融通	76	55	21	中国電力からの受電減 (電発松島2号機のトラブルによる影響)
中部電力	45	45	0	
中国電力	31	10	21	
新電力からの受電等	9	16	7	市場からの電力調達などによる増 〔 他社の余力が前日で確定するため、計画時点では 〕 〔 見込めない 〕
予備力 (予備率)	47 (3.1%)	200 (14.1%)	153	

(注)四捨五入の関係で合計が合わないことがある

### 〔供給面での取組み〕

- 原子力の代替として、今冬（12～3月）に必要な火力燃料の調達
  - ・ 石油 約130万kl(3.5倍)、LNG 約200万t(1.9倍)、石炭 約210万t(1.0倍)（）は一昨年同時期比
- 火力・水力発電所の補修停止時期の調整
  - ・ 火力、水力発電所の補修時期を厳寒期（1～2月）を避けて調整
  - ・ 平日の安定運転確保のため、設備巡視の強化や、休日等（土日祝、年末年始）に点検・追加補修を実施するなど、電源トラブル原因の早期発見・早期補修を実施
- 他社からの受電
  - ・ 他電力会社からの応援融通の受電（期間中の最大76万kW）
  - ・ 市場からの電力調達（期間中の最大58万kW）
- 緊急設置電源の追加設置
  - ・ 離島用の移動用発電機 2台を追加（計4台、0.6万kW）

### 〔需要面での取組み〕

- 需要抑制を目的とした料金メニューの実施
  - ・ 昨冬から引き続き、冬季計画調整契約を導入（契約件数328件、調整電力23万kW）
- お客さまの節電に資する電気の使い方やメニュー等のお知らせ
  - ・ 検針お知らせ票裏面によるPRや法人お客さまへの個別訪問等を通じたお願い
- 当社ホームページ等を通じた情報提供
  - ・ でんき予報による需給状況の発信、メールマガジン等による節電のお願いに関する情報発信



- 今冬は、原子力発電所が全基停止し、厳しい需給状況となることが予想されたが、お客さまに節電のご協力をいただき、また需給両面での好条件も重なった結果、電力の安定供給を維持。

### 〔需要面〕

- ・ お客さまによる節電の効果（今冬の想定からさらに上積み）
- ・ 1月以降において、寒気の停滞がなく低気温が継続しない気象状況

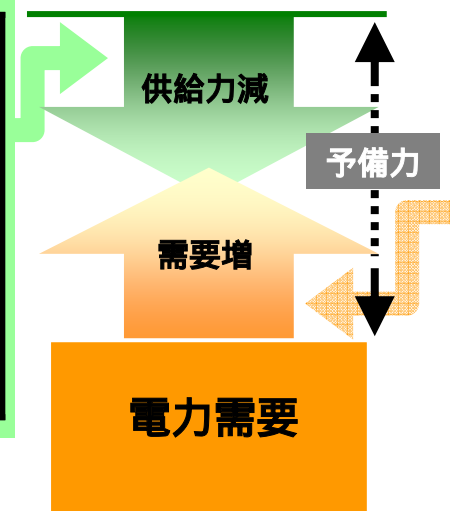
### 〔供給面〕

- ・ 厳寒期（1～2月）において、トラブルによる主要電源の計画外停止なし
- ・ 降雨増に伴い水力供給力が増加
- ・ 電力各社からほぼ計画どおり応援融通を受電、市場からの追加調達

- ただし、以下の需給変動リスクが顕在化した場合、より厳しい需給状況となっていたと考えられる。

### [供給面の変動リスク]

ケース	リスク [ 影響量 ]
A-1	発電所の計画外停止 ・ 単機最大 70万kW (昨冬の実績最大 230万kW)
A-2	渇水による水力供給力の減 (渇水の場合 10万kW)
A-3	他社の応援余力不足による融通受電の減 〔 ・ 中西地域の予備率の減、 1%あたり 70万kW ・ 他社発電所の計画外停止 〕



### [需要面の変動リスク]

ケース	リスク [ 影響量 ]
B-1	寒波による需要増 〔 ・ 気温 1 あたり + 20～30万kW 〕
B-2	節電効果の減 〔 ・ 節電率 1%あたり + 15万kW 〕